

大河原の未来を考える



中学生「まちづくり夢・未来会議」開催！

未来の大河原町をより魅力的で、住みよい町にしていこうとする心を育て、町づくりへの関心を深めることを目的とした「中学生まちづくり夢・未来会議（主催・大河原町立中学校『まちづくり夢・未来会議』実行委員会）」が6月22日、にぎわい交流施設で開催されました。

「夢のある町、理想の未来を描こう！」をテーマとして、大河原中学校と金ヶ瀬中学校の代表生徒25名が参加。生徒らは4つのグループに分かれ、中学生の視点から「実現できたらいいな」という案を出し合い、さらには「自分たちにできること」なども考えながら、夢を実現するための具体策を話し合いました。そして、大河原町の未来について真剣に話し合った様々な意見を、最後に班の意見としてまとめ、発表していました。各班の発表内容は以下のとおりです。

A班

◆外国人観光客を増やす!!

桜の歴史などの、日本語・中国語・韓国語・英語の看板を設置しPRする。

◆冬のイルミネーションをPR

インターネットやパンフレットを活用。

◆プラスチックゴミを減らそう

エコバックの普及や給食のストローを紙などにする。

◎自分たちにできること

◇母にエコバックをプレゼントする。

◇ストローは紙でがまんする。

◆駅前を魅力的に!!

◇床のタイルを新しくし明るいイメージに。（さくらつきーなど）

◇駅前に売店を作る。

◇町の魅力を一目でわかるようにする。（ポスター、パンフレット、看板など）

◎自分たちにできること

◇ポスターを描く、桜を植える、掃除をする。

◆オーガ駐輪場の整備・拡張

駐輪場が狭く、震災後はエスカレーターが動いていないため整備してほしい。



B 班

◇ぼくらが次世代のヒーローに☆

―地域スマイル大作戦―

○自分たちにできること

◇人手不足の農家に夏休み期間などで小中学生にお手伝いやボランティアをしてもらい、お礼に採れた米や野菜を食べてもらうことで町のものを知ってもらう。

◇いらないもの（ベビー&子ども用品のリサイクル。中学生が運営してバザーなどで物々交換。

◇大河原のPR動画を中学生が作り、SNSを利用して配信する。

◇公園や町のゴミ拾いをする。

◇交通手段を増やす

バスを小さくしてもいいので本数を増やす。

◇町の名物をイラスト等で二次元化

◇空き家をリメイク

都会からきた若い人、シングルマザーに貸し出す。

◇えずこホールを自由に使えるようにしてほしい

◇角田市のような総合型スポーツクラブを導入。

◇使われていない公園に遊具設置、ガーデニングできれいにする。



▲最優秀チームに選ばれたB班は今年の夏に予定されている上海への教育旅行に招待されました。

C 班

◇きれいな町を目指す

毎月、地区の人々がトイレ掃除をする。

○自分たちにできること

毎週月曜日の朝の登校時に児童・生徒がゴミ拾いを行う。

◇図書館の本を学校でも！

移動図書館が学校に来てくれれば様々な本に触れ合つことができ、学力向上につながる。

◇高齢者とのコミュニケーションの場を作る

高齢者タクシーや無料のお茶会等を開催。

○自分たちにできること

お茶会など中学生が手伝う機会を作る。

◇街灯を増やしてください

街灯が少なく暗い場所は不安なので安全に下校できるように街灯を増やす。

○自分たちにできること

交通安全を守って下校する。



D 班

◇人数の多さを有効に生かした活動

中学生が町の活性化に協力でき、町民が安全に楽しく過ごせる活動。

○自分たちにできること

◇大河原の中学生約700人全員で防災グッズを作って配布する。

◇小さい子どもたちに遊べる道具を作ってあげる。

◇外国人のために日本語学校を作ろう

外国人労働者が増えて、日本語が話せない外国人がいます。これから来る外国人、今住んでいる外国人が安心して生活できるよう日本語学校を作ればいいのではないか。

◇空き家の活用

◇謎解きマップを作成し町内をまわる。
◇空き家カフェで休憩。（伝統的な料理を食べ地域の人々と交流する）